

## Ⅶ. キャリア形成を軸とした総合人間科の取り組み

### 第1章

# 本年度の「キャリア意識の形成」プログラムにおける研究

曾我雄司

**【抄録】** 総合人間科は「キャリア意識の形成」をはかるために設けた「総合的な学習の時間」であり、本校の特設科目である。中1から高3まで、個人又はグループでテーマを設定し、事前学習を行い、訪問先を探して準備し、フィールドワークを行い、その結果を発表と集録で皆に報告するという形をとっている。SSHやSGHの指定を受けて、プログラムの見直しなども進められてきたが、高校3年生、卒業生の授業に対する満足度、有用感も一番高く、生徒の高い支持を誇っている。

**【キーワード】** 生き方 生命と環境 平和と国際理解 総合的な学習の時間 SSH SGH

### 総合人間科とキャリア教育

本校の総合人間科は、1995年度から三年間、文部省の研究開発学校に指定されたことをきっかけに、実践が始まった。研究主題は、「自分の人生を自覚的に選択していく力を育てる教育課程の開発」である。

研究開発の方向性としては、1989年度から校内で議論されてきた学校改革の試みを踏まえて、「青年期教育にあって人間と自然、社会の関わりを従来の教科の枠を超えて追及し、脱偏差値、脱教科、脱教室を柱として自己実現を図る」ことを目指してきた。

各学年にそれぞれ大テーマを設定する、フィールドワークを踏まえた研究調査および研究集録執筆・発表を一年完結で行う、各学年の教員が全員で指導に当たる、というスタイルを基本として、その年ごとの試みを加味しつつ、今日まで実践が積み重ねられてきた。授業の基本コンセプトは以下のとおりである。

「多くの人との出会いや多面的な学習から自分の興味・関心が何かを探りながら、大学との連携を生かした豊かな学習環境の中で自己の学習を跡づけ、将来の自分の生き方について、ともに学び合いながら自覚的に選び取る力（自覚的・自立的キャリア意識）を育成する」

### SSHと総合人間科

本校は2006年度からスーパー・サイエンス・ハイスクール（SSH）の指定を受けている。六か年の教育課程の中で育成するものとしてサイエンス・リテラシー（科学的思考力）が新たに盛り込まれたが、併設型中高一貫カリキュラムでは自覚的なキャリア意識の育成が柱となっている。そのキャリア意識の形成を図るため、本校では「総合人間科」の授業をあてて取り組んだ。

2014年度は、二度目の指定を受けての第四年目とな

る。第二期のSSHプログラムの中から「キャリア意識の形成」は外されたが、総合人間科が本校の教育課程の中核を担うという構造は変わっていない。またSSHで目指す力のうち、「D 問題を設定し、他者と協同して解決する力」は、総合人間科の授業の中でも育てられており、第二期SSHの一つの軸である教科における協同的探究学習の取り組みにも寄与している。

### SGHと総合人間科

本校は、2014年度にスーパー・グローバル・ハイスクール（SGH）アソシエイトとなり、2015年度から五年間のSGHの指定を受けている。SGHの課題研究の中核となるのが、総合人間科である。SGHにおける総合人間科は、これまでの取り組みの成果と反省を踏まえ、高校については三年間、連続性を持った授業とした（2015年度高校一年生より年次進行で開始）。

つまり2014年度は、「六学年がそれぞれの大テーマをもって探究活動を行う」という実践の最後の年度となる。総合人間科は大きな転機を迎えることになるが、中高六年間、または高校三年間の学習を通じて、生徒一人一人が、自分の関心と適性に応じて自分で進路を選び取っていく力をつけるという方向性が変化することはない。

以下に、各学年の取り組みを示したい。